

都市教育民生常任委員会
所管事務調査報告書

いなべ市議会

1 所管事務調査事項

市民の移動手段及び公共交通に関する事項

2 調査期間

令和2年3月～令和3年10月

3 調査実績

(1) 令和2年7月21日 都市整備部ヒアリング

【調査内容】

- ア 利便性の担保に対する考え
- イ 福祉バス運営に関する今後の方向性
- ウ 市民が「乗りにくい」と感じていることの認識
- エ シルバー人材センターへの委託について（ドライバーの高齢化、成り手不足）
- オ 鉄道との連携、時刻表の見直しに対する考え
- カ 交通空白地帯は把握しているか

(2) 令和2年8月7日

(公財)シルバー人材センター、三岐鉄道株式会社 意見交換

【意見交換内容】

- ア 福祉バス運行に関する気づき、課題など
- イ いなべ市の公共交通について



(3) 令和3年7月13日 菰野町視察「公共交通について」

【調査内容】

ア コミュニティバス及びのりあいタクシーの運営概要

イ のりあいタクシーを導入するに至った経緯

ウ コミュニティバス及びのりあいタクシーの乗降者実績（推移）

エ 電車、バス、のりあいタクシー等の連携（時刻、相互間の連絡協議）

オ 電車、バス、のりあいタクシー等に対する菰野町の財政的、人的負担及び支援の状況



(4) 令和3年8月6日 現地調査

【調査内容】

J Aみえきた移動販売



4 総括及び提言

(1) いなべ市の公共交通の概況

- ①三岐鉄道北勢線（西桑名－阿下喜間 全体13駅中いなべ市4）
- ②三岐鉄道三岐線（近鉄富田－西藤原間 全体15駅中いなべ市8）
- ③三重交通路線バス（桑名駅前－阿下喜間 全体29停車場中いなべ市11）
- ④福祉バス 全体：13路線
員弁町：市之原線、平古線
大安町：石樽線、三里丹生川線、梅戸井線
藤原町：中里線、立田線、坂本線
北勢町：十社線、治田線、山郷線、貝野線
市役所線

(2) 福祉バスの利用状況

福祉バスのルート設定は、阿下喜を核とし、各路線が往復しています。
主な利用者は、高齢者及び学生であり、利用者層の主な目的は、買い物、通院、通学となっています。

- 【福祉バス利用者数】 全体 75,408人（令和2年度実績）
- 員弁町： 9,565人（市之原線 5,838人、平古線 3,727人）
大安町：20,917人（石樽線5,614人、三里丹生川線5,582人、
梅戸井線9,721人）
藤原町：24,565人（中里線 7,936人、立田線 12,508人、
坂本線 4,121人）
北勢町：14,714人（十社線 6,320人、治田線 3,613人、
山郷線 3,349人、貝野線 1,432人）

(3) 菰野町の事例

令和3年7月13日、菰野町の公共交通について視察を行いました。

菰野町は、平成16年に運行開始したコミュニティバス（計7路線）と、オンデマンド乗合交通として「菰野町のりあいタクシー」を平成30年に運行開始しました。また、公共交通空白地有償運送として社会福祉協議会が運行する「あいあい自動車」もあります。

コミュニティバス（愛称：かもしか号）については、平成16年に、三重交通が運行していた路線バスと、菰野町が高齢者の移動目的として運行していた福祉バス（無料）を統合して運行を開始しました。運賃は1人1乗車200円（小学生、65歳以上、障害者手帳所持者は100円）となっています。また、利便性向上のため、運賃支払いは交通系ICカードを導入し、利用時は運賃が1割引になります。利用者数は、5万人程度で推移しています。運休は日曜日、年末年始。

オンデマンド乗合交通（名称：菰野町のりあいタクシー）については、事前に予約が必要で、コールセンターに電話をして予約をします。エリア内に設置された乗降場所から乗降場所まで乗車できる方式となっています。乗降場所は、①コミュニティバスのバス停、②公共施設、③各区の公会所、④病院・診療所、⑤大型スーパー、⑥郵便局・農協など金融機関、⑦区長が必要と認めた場所となっており、令和3年4月現在、247か所の乗降場所が指定されています。

町内を3つのエリア（南部・中部・北部）に分け、乗車料金は1人1乗車400円（小学生、65歳以上、障害者手帳所持者は300円）としており、エリアをまたいで乗車する場合、2エリアの移動は800円（同600円）、3エリアの移動は1,200円（同900円）となっています。利用者数は年々増加しており、令和3年3月は約700人（前年度同月比約300人増）となっています。運休は日曜日、年末年始。

菰野町は、人口の6割の町民が居住する町北部から、鉄道駅、基幹病院等がある町南部への移動について充実を求める声が多くあったため、コミュニティバスとオンデマンド乗合交通の乗り継ぎを簡素化するなど、独自の工夫を講じていました。

乗り継ぎの時刻検索や簡単な予約システムとするため、MaaS（マース「出発地から目的地まで、利用者にとっての最適経路を提示するとともに、複数の交通手段やその他のサービスを含め、一括して提供するサービス）を活用しています。

（4）移動販売の活用

平成31年4月に運行を始めたJAみえきたの移動販売車「みえきたん号」は、利用者も増加傾向にあります。現在、市内5コースの設定があり、JA直売所「いなべっこ」の定休日である火曜日を除き、月曜日から土曜日まで市内中山間地を巡回されています。

令和3年8月6日、JAみえきた販売部長及び直販課長に同行いただき、当委員会で現地調査を行いました。

移動販売車には、生鮮食品をはじめ、総菜、日用品、生花など、利用者のニーズに応じた商品が陳列し、思い思いに商品を購入されていました。

今後、移動販売のニーズはますます高まると考えます。また、市内の中山間地であっても移動販売が来ない地域もあります。市民の日常生活の一助となることを考え、事業者と行政で意見交換の場を設けることが必要ではないかと考えます。

（5）いなべ市の福祉バス

現在運行中の福祉バスの利用状況は、1日平均300人程度で、福祉バス運行事業に要する予算から、1回の乗車に1,500円程度かかっている換算になります。

交通弱者にとって、なくてはならない移動手段であることから維持していく必要はありますが、現状の運営が最善の策とは限らず、常に改善に向けた対策を協議する場が必要だと思います。そのため、運行事業者を含め、地域の福祉委員会、利用者代表など、多くの市民を巻き込んだ協議の場を設けてはどうかと考えます。

また、市としては、新公共交通システムについても調査研究することが議会で答弁されているので、今後、進捗について引き続き検証していきます。

公共交通利用者の多くは高齢者及び学生であり、高齢者については、福祉部から生活全般に関する基礎調査も行われており、こういった情報も共有していく必要があります。